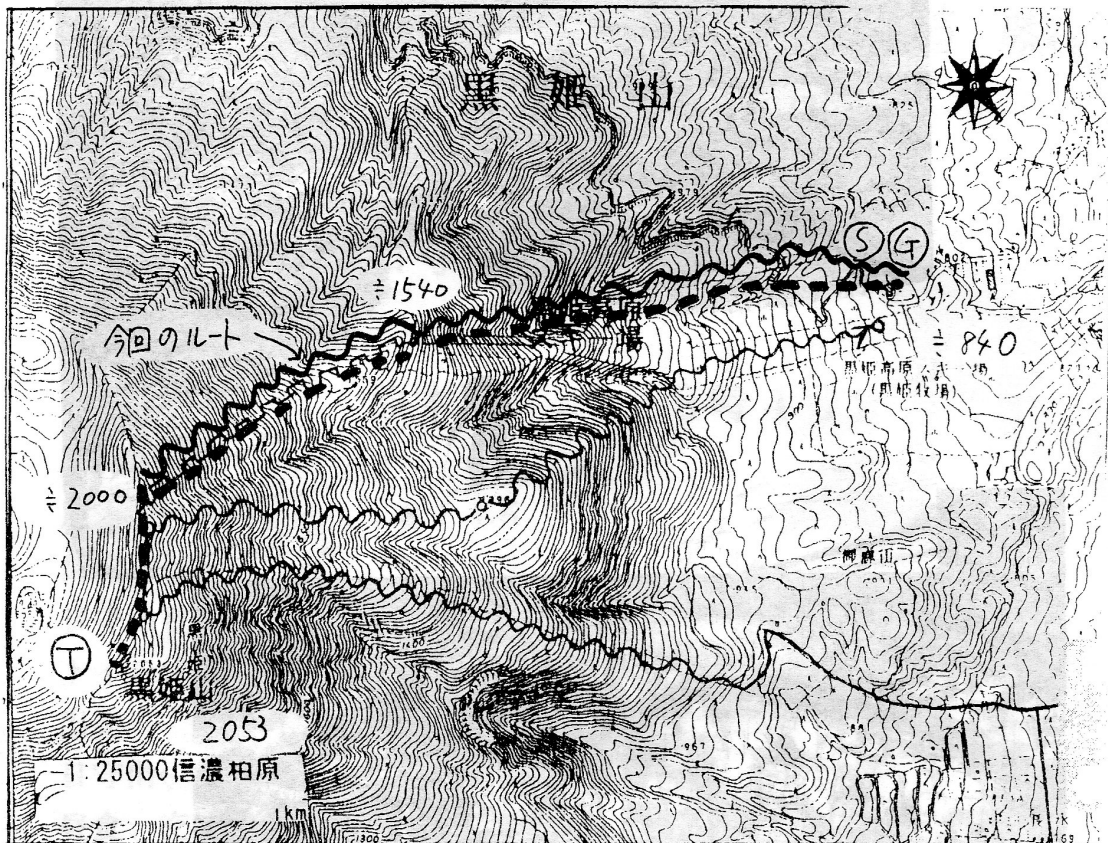


通算山行NO	通算NO・225d	報告者	加藤 秀子		
年月日	'02年 3月 8日(金曜日夜立)～ 年 3月10日(日曜日)				
山行名	山スキーと登山 黒姫山と飯綱山	天候	晴れ		
山名	黒姫山 標高差1213 m				
この山のセールスポイント	<p style="text-align: center;"><b>一気登りの急斜面は、 ダイナミックな滑りで超快適！</b></p>				
コース 及び タイム	/9 起床 3:30 出発 5:50 ～ゲレンデトップ 8:10 ～稜線18:10 ～ 黒姫山10:40 ～ゲレンデ下13:20				
標高差	△	m	m=1213 m	体力度	1・2・3・④・5・6
	▼	m	m=1150 m	技術度	1・2・3・④・5・6
全行程距離	～	=	km	景観美	1・2・3・4・5・⑥
CL	後藤隆徳 去年はスキー場が閉鎖で更に美しくなる。				
	加藤秀子 山の空気は清々しくていい。展望の素晴らしさもいい。滑る快感も五感にイイ。				
<p>リフト開始からでは遅いとゲレンデからシール登行。10日ばかり、ひどい喉の痛みと咳き込みで、今も声の出ない状態の私は、歩き始めて10分でゼーゼーハーハー息が上がってしまった。調子が出ない私に『自己管理ができていない』とCLの叱責が飛ぶ。もともとだ。歩きながら、体調が悪いのに来てしまった後悔と、ついていけないもどかしさ、待たせてしまう申し訳なさで心の中で葛藤する。</p> <p>ゲレンデ最上部の圧雪されていない急斜面は、固い締まった雪に新しい雪が積もり、適当な腐り方で最高の雪質だ。体調が悪いのも忘れ嬉しくなってしまう。歩きやすい雪面にCLの足は快調だ。グングン高度を稼ぐ。標高1000m。正に一気登りの斜面は行けども行けども、登山口であるスキー場の施設が眼下にあった。少し平らの岳樺の美しい林が広がる。</p> <p>此処から先はトレースがついていた。斜面は相変わらず急登で苦しいが、ダラダラの斜面を登るよりは遙かにいい。山の空気は喉の痛みも和らげるのか、いつの間にか声を出しての意思表示もできるようになった。急登のみで緊張を強いられる所もなく頂上着。展望は素晴らしい。360°絶景だ。なかでも妙高の特異な山容が圧倒的に迫り感激をする。今まで登った火打、戸隠、高妻山、雨飾等を眺めながら、後悔も懺悔も何処へやら。「来て良かった～」と実感。CLに山座同定をしてもらい写真におさまる。</p> <p>帰路。最初のピーク迄はアップダウンが多い為、シールを付けたまま下る。途中、風の当たらない日当たりのいい場所で昼食。序にひっくり返って昼寝も楽しむ。サンサンと降り注ぐ陽射しをものに浴びて顔がヒリヒリ。あとの祭りとなった・・・。</p> <p>滑り出しは快調だ。少し雪が重い、曲線を描いて滑るCLの後を追う。此処の所、素人の私の目からみてもCLの滑りは冴えがある。ターンの切れがいい。6年前私が初めて教えて貰っていた頃とは雲泥の差だ。CLより巧くなりたい(生意気?)と精進を重ねているが</p>					







2544 信濃相原 上り ≒ 1213m 滑り ≒ 1150m

私が少し滑れるようになると、CLは更に巧くなる。いつも平行線で交わる事がない。身体を面すれすれに折り曲げて、「ズバーッ」と雪煙をダイナミックにあげてターンを決めるCLを羨ましげに眺めながら、自分も真似をしてみる。途端にこけた。私は膝の屈伸ができない。頭でわかっているが身体が言う事を聞いてくれないのだ。ターンで曲げ伸ばしに気を使っていると、板の先端が「X」に重なって転倒してしまう。苦勞をしている私にCLが上手い事を言った。『あんまり巧くなっても、ただ滑るだけでつまんなくなるよ。巧くなりたいと一生懸命やっている時が一番いいのかもしれないよ』と。

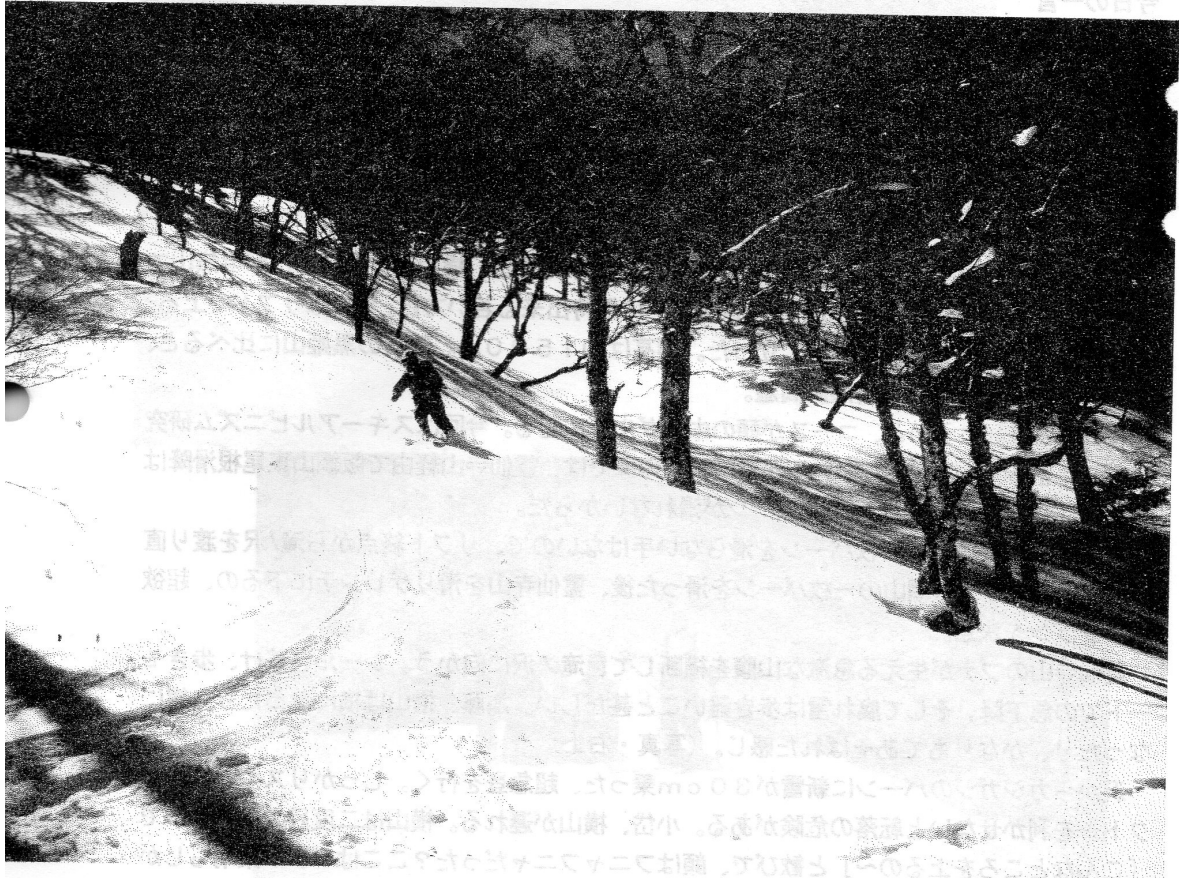
そんな事をしているうちに、美しい林の斜面に出た。雰囲気は最高で木の間を歓声あげながら潜り抜ける。2~3人の山スキーヤーがあがっていった。今から何処までいくのかな。快適な滑りは早い。アッという間にリフト終点地だ。途端に下界の喧騒が耳に入ってくる。ビールを一口飲んでから、最後の滑りをじっくり楽しんで終了。

スキー場を少し下った民宿「あすなる」で一風呂浴びる。湯上がりに熱燗と、いけすで釣

ったばかりの《17+》の刺し身、身がプリプリ、シコシコ極うまでした。明日の下見を先に・・・と後ろ髪ひかれる思いで次の予定地、飯綱山スキー場へ向かう。先ずセンターへ行き、リフトが何処まで行っているのかを確認。次にトイレの問題だ。私達は常に簡易トイレを持ち歩いているが、トイレが一晩中使用可能であればそれに越した事はない。

センターの人達の対応は親切で気持ち良かった。そして此処はホテル?と間違うような綺麗で豪華な洗面台付きのトイレ。花瓶に飾られた花からは芳香剤ではなく、本物の花の香りが漂う。又、女性専用の個室トイレは昨年まで使用料をとっていたが、今年から無料なので使っていていいと言う。一畳には満たないが普通のトイレの2倍。超最新式のウォシュレットに、やはり豪華な洗面台。一晩中湯も出る。ヨシッ!これで今夜はここで車中泊決まりだ。

下見は済んだ。まだ時間はたっぷりある。そこで、車で5分の所に温泉があると聞いて早速出向く。再び湯に浸かり、広い座敷で又一杯。今夜はスキー仲間の小岱が、一般参加の横山女史を伴い現地へ来る予定だ。明日の飯綱山は楽しみである。





会山行報告（第12回山スキー）

02・03・10（第2日目・無風快晴のち曇）

報告者・後藤隆徳

飯綱山（1917m）

## 飯綱・霊仙寺の二枚のバーンを滑る欲張りツアー

時間 起床5:00—最終リフト発8:50—飯綱山10:45~12:30—霊仙寺山  
13:05—帰着14:05—静岡21:00

標高差 後藤・上り=467m+150m+150m

下り=967m+150m+150m

加藤、小岱・上り=467m+150m

下り=967m+150m

横山・上り=467m、下り=967m

### 今日の一言

後藤隆徳（55）＝こんなイイ山知らなかった。また、来ようぜ。

加藤秀子（53）＝前後が離れ一人旅。でも山は受け入れてくれた。

小岱正男（54）＝あんな厳しいスキーでの上りは初めてかも。良い思い出となりました。

横山多輝子（36）＝恐かったけれど何とか連れて行って貰い有難う御座いました。

今朝も暖かい朝を迎えた。駐車場で昨夜24時に来た小岱、横山と合流。小岱が毛無山で知り合った横山とは初めての山行。今後が大いに期待出来る若い方だ。今日はリフトで上る。3本乗りついてゲレンデ最上部に立った。標高は約1500m。昨日の黒姫山に比べると、はるかに楽だ。天気は快晴無風高温。

今日はどうしようかと、コースが頭の中でグルグル回る。今回はスキーアルピニズム研究会の記録を参考にしてきたが、下から眺めた印象では、霊仙寺山経由で飯綱山東尾根滑降は面白くなさそう。霊仙寺東面のバーンが滑れないからだ。

ここで、霊仙寺山の一枚バーンを滑らない手はないので、リフト終点から滝ノ沢を渡り直に飯綱山に上り、飯綱山の一枚バーンを滑った後、霊仙寺山を滑りゲレンデに下るの、超欲張りプランを決意。

霊仙寺山のブナが生える急激な山腹を横断して、滝ノ沢に向かう。シールを着け、歩きモードでの急下降。そして腐れ雪は歩き難いこと甚だしい。加藤、横山は横になったり、縦になったり、かなりもてあそばれた感じ。（写真・右上）

沢からガジガジのバーンに新雪が30cm乗った、超急登に行く。しっかりスキーに乗りクートを利かせないと転落の危険がある。小岱、横山が遅れる。横山は二度目の山スキーで「こんなところを上るの～」と歎びで、顔はフニャフニャだった？ここはブナが素晴らしかった。林は次第にダケカンバに変わって行く。

山立木...  
山ノ越は風...  
...  
この身は...  
...



三きり...  
...  
山寺...  
...







やや荒れているが、質は悪く無かった。ただ、ルートが想像以上に急峻で、しかも雪が深く、登るのに大変な苦労をした。雪が深く、登るのに大変な苦労をした。雪が深く、登るのに大変な苦労をした。

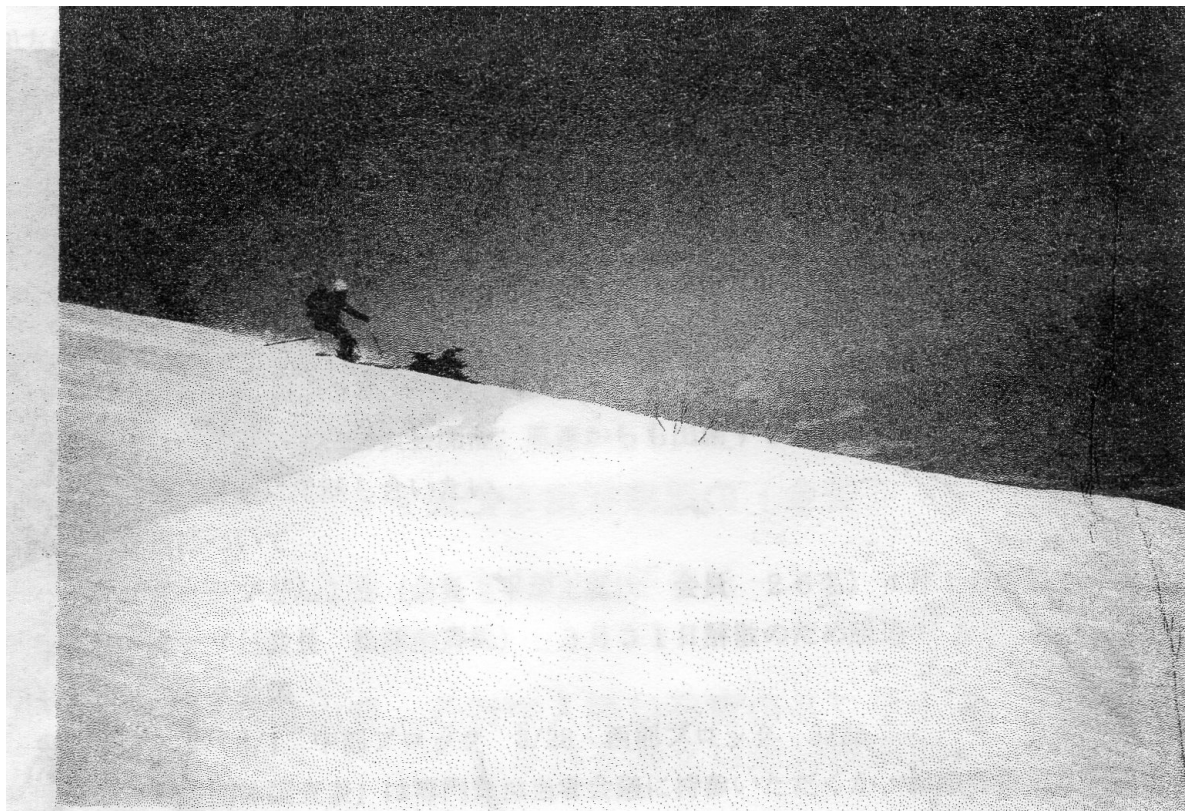
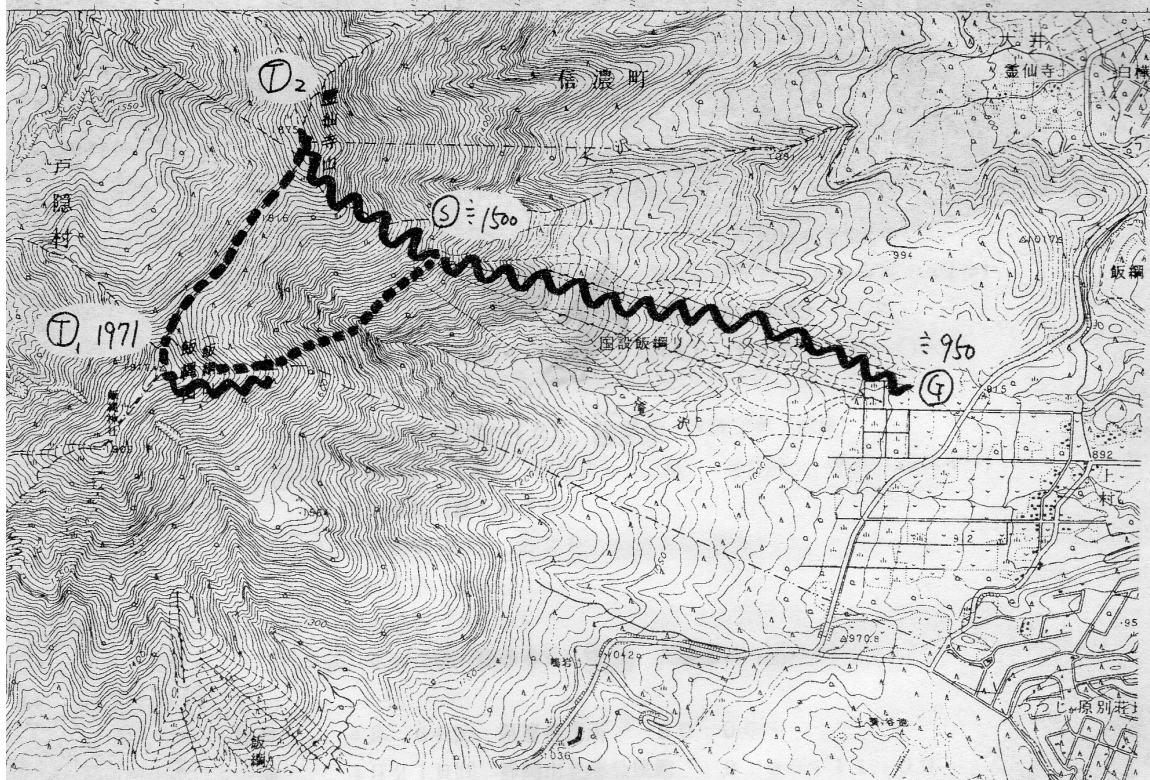
樹林帯直下でやや急峻な斜面を登る。この下は雪が深く、登るのに大変な苦労をした。雪が深く、登るのに大変な苦労をした。

この下は雪が深く、登るのに大変な苦労をした。雪が深く、登るのに大変な苦労をした。雪が深く、登るのに大変な苦労をした。



今回の

1. 横山さ
2. 少なくとも
3. 夏山登山で







滑る東面を覗くと、ゲレンデ下まで標高差千mあるが、真下に見える感じだ。ここはボーデ向きだ。ショージに滑って貰いたかったナー。私が先頭で突っ込む。雪はボーダーが滑りやや荒れているが、質は悪く無かった。ただ、ルートが全体的に右曲がりなので、やや滑り難い。本当は一直線に行きたい所だが。

樹林帯直前のバーンは真っ更でサイコー。横山は本人曰く、「余りの急下降で、腰が引けて」でやや苦戦。しかし、すぐ慣れるだろう。

この下は、カンパの林が広がり、右に左に巧みに滑る。これが案外面白い。バーンを滑るのとは、また、一味違う。この辺は加藤が最も得意にする所だった。この「味」はゲレンデでは絶対味わえない。

後はコブコブのゲレンデをこなし、出発点に戻った。後は昨日同様、牟礼村の「天狗の湯」に浸かった。500円でなかなか良い温泉で、露天風呂から飯綱山の二枚のバーンが良く見えた。(写真・右が霊仙寺山、左が飯綱山)

こうして滑った所を眺めるのは気分が良い。ただ、ここで食べたヒレカツ定食は最悪で、「ひでえーカツ定食」だった。絶対、食わないことを進言します。

## 今回の反省・感想

1. 横山さんは大きく育って欲しい。
2. 少なくとも、携帯電話は持参したい。
3. 夏山登山で基礎体力を養おう。

